公益社団法人日本動物学会　2025 年度事業報告

Ⅰ. 事業の実施状況（公益目的事業の実施状況）

1. 社員総会
定時社員総会　2025 年 9 月 4 日（木）ポートメッセなごや　交流センター
第一号議案　2024 年度事業報告
第二号議案　2024 年度決算報告（貸借対照表、損益計算書、及び財産目録）

2. 学術集会の開催
2025 年 9 月 4 日（木）～6 日（土)、日本動物学会第 96 回名古屋大会をポートメッセなごや（愛知県名古屋市）で開催した。大会参加 1,013 名、高校生発表参加 351 名、動物学ひろば参加 550 名以上、一般公開講演会参加 50 名以上であった。発表件数は一般講演 492 題、シンポジウム・関連集会は本部企画（ナリシゲ）シンポジウムを含め全 24 企画（126 演題）であった。また、高校生発表 98 演題、動物学ひろば 17 企画、一般公開講演会 3 演題を実施した。
（公益 1）

3. 学術誌の刊行
Zoological Science（ZS）の刊行（42 巻 4 号～第 43 巻 3 号)。608 頁。ZS の編集は、編集委員会委員が行った。編集委員会は年 1 回開催。
Open Access ジャーナル Zoological Letters を出版した。OA ジャーナルのため、巻号はない。2025 年度の出版論文数は 15 論文である。
（公益 1）

4. Web による広報活動の促進とニュースの発行
web サイトを利用して、大学等研究機関による職員募集、科学者によるセミナー、シンポジウムの開催通知、動物学研究トピックスなどを随時掲載した。ニュースを月 1 回発行。

5. データベース構築(ZooDiversity Web)
ZooDiversity Web は Zoological Science、動物学雑誌、動物学彙報の論文について、DOI の付与、巻号年に沿ったアーカイブの公開、動物名データベースによる論文検索と PDF ダウンロードを実現しており、本学会の公益事業としても位置付けられる。これまで、動物学会による支援と科研費による支援を受けながら、ダイナックス社と協働して ZDW の構築を進め、基本的なシステムは完成しており、現在は、維持（データ更新を含む)・管理のフェーズに移行している。
（公益 1）

6. 研究の表彰
・日本動物学会賞（公益 1）
会員を対象とし、動物学研究に新たな知見をもたらした研究に授与。
学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会賞の受賞者を決定した。
【2025 年度受賞者 2 名】
・成瀬　清（自然科学研究機構基礎生物学研究所・特任教授）
　研究テーマ「メダカバイオリソースの整備と新しいメダカバイオロジーの展開」
・兵藤　晋（東京大学大気海洋研究所・教授）
　研究テーマ「軟骨魚類のライフサイクルを通した生理学的研究」

・日本動物学会奨励賞（公益 1）
会員を対象とし、今後の動物学研究を推進することが期待される若手研究者に授与。
学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会奨励賞の受賞者を決定した。
【2024 年度受賞者 3 名】
・城倉　圭（基礎生物学研究所・若手研究者雇用特別研究員）
　研究テーマ「有櫛動物クシクラゲを用いた細胞生物学及び生理学的研究」
・山本　遼介（大阪大学大学院理学研究科・講師）
　研究テーマ「繊毛ダイニンの組成・活性制御・構築機構の研究」
・横井　佐織（北海道大学大学院薬学研究科・助教）
　研究テーマ「メダカの行動を制御する分子神経基盤の解析」

・Zoological Science Award（公益 1）

本学会の会員・非会員および国籍を問わず、前年に出版された Zoological Science 掲載論文の中から、各分野において、優秀でインパクトのある論文の著者に授与。編集委員により審議で授与される。
Zoological Science 編集委員会による選考と理事会の議を経て、Zoological Science Award の受賞論文を決定した。
【2025 年度受賞論文 5 件】
・Histological Observation of Helmet Development in the Treehopper *Poppea capricornis* (Insecta: Hemiptera: Membracidae)
Kanta Sugiura, Tensho Terano, Haruhiko Adachi, Jin Hagiwara, Keisuke Matsuda, Kenji Nishida, Paul Hanson, Shigeru Kondo, Hiroki Gotoh
Zoological Science 41 (2): 167-176. https://doi.org/10.2108/zs230039　分野　Developmental Biology
・A CatSper-Uninvolved Mechanism to Induce Forward Sperm Motility in the Internal Fertilization
Sayuri Goto, Tomoe Takahashi, Tae Sato, Fubito Toyama, Eriko Takayama-Watanabe, Akihiko Watanabe
Zoological Science 41 (3): 302-313. https://doi.org/10.2108/zs230046　分野　Reproductive Biology
・Environment-Mediated Vertical Transmission Fostered Uncoupled Phylogenetic Relationships Between Longicorn Beetles and Their Symbionts
Yasunori Sasakura, Nobuhisa Yuzawa, Junsuke Yamasako, Kazuki Mori, Takeo Horie, Masaru Nonaka
Zoological Science 41 (4): 363-376. https://doi.org/10.2108/zs230034　分野　Diversity and Evolution
・Long-Term Heat Tolerance and Accelerated Metamorphosis: Hot Spring Adaptations of *Buergeria japonica*
Bagus Priambodo, Kento Shiraga, Ippei Harada, Hajime Ogino, Takeshi Igawa
Zoological Science 41 (5): 424-429. https://doi.org/10.2108/zs240011　分野　Ecology
・Electromyography of Flight Muscles in Free-Flying Chestnut Tiger Butterfly, *Parantica sita*
Noriyasu Ando, Norio Hirai, Makoto Iima, Kei Senda
Zoological Science 41 (6): 557-563. https://doi.org/10.2108/zs240039　分野　Physiology

・日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞（公益 1）
本学会の会員・非会員を問わず、安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意欲的に取り組もうとする女性研究者に授与。OM 賞選考委員会の審査と理事会の議を経て、日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞受賞者を決定した。
【2025 年度受賞者 2 名】
・坂爪　明日香（お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所　特別研究員）
研究テーマ「サンゴ幼生の重力走性行動の仕組み及び着生と分散における役割」
・丸岡　奈津美（宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター　日本学術振興会特別研究員 PD）
研究テーマ「野外ミジンコ個体群の共存を支える休眠戦略の分子基盤の解明」

・成茂動物科学振興賞（公益 1）
動物学の全分野でユニークな研究を展開する会員を振興賞の候補者とする。学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、成茂動物科学振興賞の受賞者を決定した。
【2025 年度受賞者 1 名】
・足立　晴彦（慶應義塾大学先端生命科学研究所・特任助教）
研究テーマ「独自の可視化解析で明らかにする節足動物の多階層的生体ダイナミクス」

・国際会議発表支援川口賞（公益 1）
海外国際会議に出席する若手研究者を対象に授与。学会賞等選考委員会と理事会の審査を経て、国際会議発表支援川口賞の受賞者を決定した。
【2025 年度受賞者 2 名】
柴田ゆき野（帝京大学先端総合研究機構）出席国際学会　Gordon research conference:　A Systems View on Behavior, Genes, Neurons and Environment　（開催地　Lucca, Italy）
森井　椋太（東京大学大学院農学生命科学研究科）出席国際学会　British Ecological Society Annual Meeting 2025（開催地　Edinburgh, United Kingdom）

・動物学教育賞（公益 1）
本学会の会員・非会員および国籍を問わず活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体を対象とする。学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、動物学教育賞の受賞者を決定した。
【2025 年度受賞者 1 団体】
公益財団法人名古屋みなと振興財団
授賞テーマ「名古屋港水族館における海洋動物に関する教育普及活動」

・茗原眞路子研究奨励助成（公益 1）
本学会の会員・非会員を問わず、基礎生物学（動物学）の研究に従事し、良い基礎研究であるが研究費に必ずしも恵まれない方への研究費の支援を行うことを目的とする。茗原眞路子研究奨励助成選考委員会による審査と理事会の議を経て、茗原眞路子研究奨励助成の受給者を決定した。
【2025 年度採択者 3 名】
・立石　康介（関西学院大学・助教）
研究課題名「冗長かつ多様な感覚入力によって支えられるアリのフェロモン受容機構の解明」
・土田　華鈴（京都大学・特定助教）
研究課題名「他人の空似はなぜ起こるのか？寄生性線虫が抱えるパラドックス」
・堀　沙耶香（奈良女子大学・准教授）
研究課題名「雌雄同体と雄の性的二型をもつ動物のリスク回避戦略の行動性差の解析」

7.　動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動

国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行った。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進した。
（公益 1）

8. 役員及び委員会活動

広報委員会

1）学会ホームページの情報更新・管理維持を行った。
2）会員へのダイレクトメール情報に基づき、公募・研究情報・研究集会情報を学会ホームページに掲載し、月 1 回のメールマガジン配信を会員向けに行った。
3）2024 年度事業報告，決算書，総会・理事会の議事録を学会ホームページに掲載した。
4）2025 年度日本動物学会賞、奨励賞、成茂動物科学振興賞、動物学教育賞、女性研究者奨励 OM 賞、茗原眞路子研究奨励助成の受賞者決定情報（授賞理由・要旨を含む）を学会ホームページに掲載した。
5）学会ホームページの委員会名簿，定款細則を更新した。
6）プライバシーポリシー（個人情報保護方針）を学会ホームページに掲載した。
7）茗原眞路子研究奨励助成の要旨および報告書を学会ホームページに掲載した。
8）川口賞の報告書を学会ホームページに掲載した。
9）2026 年度日本動物学会賞、奨励賞、成茂動物科学振興賞、動物学教育賞、女性研究者奨励 OM 賞、川口賞、茗原眞路子研究奨励助成の募集情報を学会ホームページに掲載した。
10）書評 8 件を学会ホームページに掲載した。

出版・図書委員会

・この期間中に出版・図書委員の交替／変更はなかった。
・これまで継続してきた、Springer Series“Diversity and Commonality in Animals”の継続刊行企画（Vol 4. Animal Behaviors（仮題）, Vol 5. Endocrine Systems in Animals（仮題））については、企画立案から 10 年以上が経過しているため再考し、新たな企画を立てるほか、学会員に企画を募集する計画である。

将来計画委員会

1. 2025 年 8 月にメール会議を実施し、名古屋大会にて開催する若手交流会および男女共同参画懇談会（キャリアパス小委員会）の打ち合わせを行い、各担当を決めるとともに、アナウンスの方法について確認した。
2. 第 96 回日本動物学会名古屋大会において、初の試みとなるランチョンセミナー形式の若手交流会を開催した。お弁当を 40 個用意したが、それを上回る 62 名の参加者があり、活発な意見交換が行われた。参加者からは、「他大学、他分野の学生と話す機会を得られた」、「学部 3 年だったため、院進の相談などができて非常に良かった」等の好意的な感想が寄せられた。
3. 第 96 回日本動物学会名古屋大会において開催された第 25 回男女共同参画委員会懇談会ランチョン企画「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究を無理なく続けるコツ～」にキャリアパス小委員会が協力した。グループディスカッションでは、キャリアパス関係のグループの司会を担当した。
4. 2025 年 9 月 16 日にオンライン会議を実施し、引き継ぎと名古屋大会の反省会を行った。名古屋大会では初日に若手交流会、2 日目に男女共同参画懇談会を開催し、若手交流会から続けて男女共同参画懇談会に参加する学生がいたなど、連携がうまくはかれたことから、次期大会でも同様の日程での開催を予定することを確認した。若手交流会、男女共同参画懇談会（キャリアパス小委員会）の担当を決めた。また、中国四国支部代表委員の交代が報告された。
5. 第 97 回日本動物学会札幌大会にて開催予定の第 3 回目若手交流会の申請を行った。名古屋大会に引き続き

ランチョン形式で実施予定である。
6. 第 97 回日本動物学会札幌大会で開催予定の第 26 回男女共同参画委員会懇談会と協力体制をとり、懇談会への若手の参加を促すために、1 日目に若手交流会、2 日目に男女共同参画委員会懇談会をそれぞれランチョン形式で開催することで打ち合わせを行った。

国際交流委員会

【委員名簿】

支部	氏名	所属
担当理事、委員長	三浦　徹	東京大学 大学院理学系研究科 附属臨海実験所
北海道	竹内勇一	北海道大学 大学院理学研究院
東北	横井勇人	東北大学 農学研究科
関東	谷口俊介	筑波大学 下田臨海実験センター
中部	日下部誠	静岡大学 理学部
近畿	梅園良彦	兵庫県立大学
中国・四国	安齋　賢	岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域
九州	山崎博史	九州大学

【名古屋大会での国際シンポジウム報告】

・シンポタイトル：Reconsideration of smartness in animals: its similarity and divergence
　　動物の賢さを再考する～その共通性と多様性～
・オーガナイザー：池田　譲（琉球大学）
・日時：2025 年 9 月 5 日（金） 17：30～20：30
・会場：A 会場（きんしゃち）
・概要

Beside human, we know many examples of smart animals such as chimpanzees and crows that exhibit advanced learning abilities both in nature and in laboratory. One of shared features of these smart animals is large brain and sophisticated senses. Today such examples for smartness are getting expansion to other phylum even to invertebrates. Coelopid cephalopods (octopus, cuttlefish and squid) are such an exceptional invertebrate facilitated with megalobrain and lens eyes, performing extraordinary intelligence and unique behavior such seen in dynamic camouflage. Yes, they are smarter than we usually imagine. So, are cephalopods are human-like animals? Or, are they another mammals or birds? When we think about smartness and cognition of animals, we should look at their evolutionary history and life span that determine the present form of each species. In this symposium, we will focus on cephalopods as smart animal, and compare them with other animals including primates, birds and arthropods, by which we try to reconsider what smartness is among animals.

IS1-1 はじめに
　Opening Remarks：Animal intelligence in their own life
　池田譲 Yuzuru Ikeda（琉球大学・理・海洋自然）
IS1-2 頭足類の心を探る旅
　A Journey into the Cephalopod Mind
　シュネルアレックス Alex Schnell（University of Cambridge）
IS1-3 表情を顔から解き放つ：動物コミュニケーションにおける表現概念の拡張
　Beyond the Face：Expanding the Concept of Expression in Animal Communication
　高野裕治 Yuji Takano（人間環境大学総合心理学部総合心理学科）
IS1-4 適応行動の学習に至る複数の道筋：コモンマーモセットの場合
　Multiple pathways for learning adaptive behavior：a case of common marmosets
　山崎由美子 Yumiko Yamazaki（新潟医福大・心理健康）
IS1-5 ダンゴムシにおける創発的行動と問題解決
　Emergent behavior and problem solving in pill bugs
　森山徹 Toru Moriyama（信州大学・繊維学部）
IS1-6 タコが経験するマルチモーダルな感覚世界
　Multisensory world experienced by octopus
　川島菫 Sumire Kawashima（琉球大学・理・海洋自然）

【国際シンポジウム開催後記】

去る 2025 年 9 月 5 日 17 時半より、日本動物学会の援助のもと国際シンポジウム“Reconsideration of smartness in animals: its similarity and divergence”を開催した。

タイトルにあるように、近年知見が蓄積されつつある動物の知性、賢さについて、その類似性と多様性を改めて考えてみようというのが、本シンポジウムの意図であった。そのため、ヒトに近い霊長類の種に限らず、無脊椎動物も含めた広い動物群を議論の対象とした。基調講演者として Alex Schnell 博士（National Geographic Explorer/ケンブリッジ大学客員研究員）をオーストラリアより招聘した。Schnell 博士は頭足類の知性に着目した行動学的研究で知られ、いわゆるマシュマロテストを用いてヨーロッパコウイカの自己抑制能力を明らかにした研究は、近年、日本のメディアでも取り上げられて話題となった。日本からは、高野裕治博士（人間環境大学）、山﨑由美子博士（新潟医療福祉大学）、森山徹博士（信州大学）、川島葉博士（琉球大学）が講演者として登壇し、それぞれヒト、マーモセット、ダンゴムシ、タコを対象とした表情、学習、道具使用、クロスモーダル認知、錯覚などに関する知見が語られた。Schnell 博士の講演は頭足類の野外での美しく躍動的な動画も織り交ぜたもので、一時オーディエンスを魅了した。また、日本人研究者による講演内容も個々にユニークで、それがそのまま動物の賢さの多様性を現していた。
来場者は、出入りもあったのでおおよそのところだが、多い時で 70 名ほどと見受けられた。最後に設けた総合討論では来場者からも英語による活発な質疑があり、有意義な議論の場となった。一方、同時並行で他に複数のシンポジウムが開催されていたことや、時間帯が夕刻から夜と遅めの設定あったことも影響したのか、来場者にもう一つ伸びがなかったことがやや残念ではあった。これは、オーガナイザーの事前の宣伝不足に負うところも大いにあったと反省させられた。
最後に、本国際シンポジウムの機会を与えて下さり、海外からの基調講演者の招聘をサポートして下さった日本動物学会に感謝致します。
文責：オーガナイザー・池田　譲（琉球大学）

【来年度の札幌大会での国際シンポジウム企画】
・来年度の札幌大会での国際シンポジウム企画、国際交流セミナーの提案を各支部から随時募ったが、企画提案は無かったため札幌大会では国際シンポジウムなしということになった。

男女共同参画委員会
1. 第 96 回名古屋大会にて、キャリアパス小委員会と合同企画として第 25 回男女共同参画懇談会：「ワーク・ライフ・バランスを考える」を実施し、ランチョンセミナーとグループディスカッションを行った。グループディスカッションでは 4 グループにわかれ、下記の 4 つのテーマについて議論した。それぞれのグループには男女共同参画委員会委員がファシリテーターとして参加し、活発な議論が行われた。参加者は 74 名、シニア、中堅、若手研究者から大学院生と、幅広い世代の参加があった。
   ・キャリアパス（キャリアパス小委員会）
   【キーワード：ポスドク、研究員、企業、アカデミックポジション、テニュアトラック、教員公募】
   ・勤務地と日々の生活
   【キーワード：交際相手と自分のキャリアの両立、介護、同居、別居】
   ・働き方と日々の生活
   【キーワード：子育て、出張、学生教育と研究業績、講義の負担、キャリアの選択】
   ・研究と日々の生活
   【キーワード：研究時間の確保，研究者交流，生活習慣，研究のオリジナリティ】
2. 第 23 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（2025 年 10 月 11 日（土）日本大学湘南キャンパス＆オンライン(Zoom webinar)開催）に参加し、活動報告のポスター発表を行うとともに、シンポジウム資料集に活動報告書を掲載した。
3. 男女共同参画学協会連絡会第 24 期総会、第 1 回運営委員会（2025 年 12 月 8 日（月）Web 会議）、および第 2 回運営委員会（2026 年 3 月 11 日（水））に参加した。

教育委員会
2025 年 9 月 17 日にオンラインでの委員会を開催した。議事録は以下。

日本動物学会 2025 年度教育委員会　議事録
日時：2025 年 9 月 17 日(水) 10:00～11:00
場所：オンライン
出席者：和田洋（担当理事）、小谷友也（北海道支部）、出口竜作（東北支部）、谷口俊介（関東支部）、鈴木信雄（中部支部）、古屋秀隆（近畿支部）、森下文浩（中国四国支部）、嬉正勝（九州支部度）、藤原滋樹（オブザーバー2026 年中国四国支部）

出席委員の自己紹介を行った。
議題 1）本大会及び支部大会における高校生発表の倫理審査などについて

昨年度より議題として上がっていた、本大会及び支部大会における高校生発表の倫理審査（動物を対象とした実験、ヒトを対象とした実験、組換え実験を伴う研究などについて）について、現状と課題に関する意見交換を行った。

・過去の支部大会などでは高校生発表の申し込みフォームに一定の説明があることが指摘された（以下は、会議後に確認された内容）
  ➢日本動物学会を含む学会などにおいて、これまでに発表した内容とまったく同じ内容のものを発表することは、「重複発表」になり好ましくありません。
  ➢他の研究チームによる先行研究がある場合は、それを必ず引用し、かつ、その研究とはどこが異なるのかを明示してください（著作権の侵害や剽窃などがないように注意してください）。また、同じ研究チーム内であっても、例えば、数年かけて観察・研究し、その経過報告を毎年発表するような場合には、これまでの経過と新しく取得したデータの境界を明示することが望ましいです。
  ➢高校生自身が実験を遂行した箇所と、指導された先生または外部研究者の方が実験を遂行された箇所を、区別するように発表してください。もちろん、結論を導くにあたって両者のデータが必要であることを妨げるものではありません。

・剽窃も含めたガイドラインをまとめることが望ましい。
・動物学会だけの問題ではないため、生科連などと協調して統一したガイドラインを作ることが望ましい。
・北海道支部では、支部大会で研究倫理に関する講演を行った。このような講演を録画して広く視聴してもらうのが望ましいのではないか。

➢以上の意見交換を受けて、生科連に働きかけてみることとした

議題２）一般講演会とは別の形での高校生などへの啓蒙活動の可能性について
教育委員会で担当する高校生への啓蒙活動としては、本大会や支部大会での一般向け講演、高校生ポスター発表などが主な活動であったが、それ以外に可能性はないだろうかとして、意見交換を行った。
・臨海実験所などでは高校生向けの活動など、かなり行っている。新しいことを始めるよりはそのような活動を学会として支援する形が望ましい。
・小学生への解剖講座などを行っている。需要はあると思う。
・分子生物学会では、出前授業の講師の斡旋などを行っている。同様の活動を動物学会でもできるのではないか。
・NPO 法人や水族館などの活動を学会から支援することも考えられる。
・学会からの支援の形として、講師の紹介、派遣が考えられる。
・学会と共催にすると学会長、あるいは支部長名での参加証を出してあげることも考えられる。

➢以上の意見交換を受けて、12 月の理事会で理事の意見を聞いてみることとした。

議題３）生科連からの用語集作成依頼について
生科連から学会に宛てて用語集の作製を依頼する予定があることが伝えられた。会長からは積極的に支援したいとのことであった。それを受けて教育委員会で引き受ける可能性について意見交換を行った。基本的には依頼を受けて協力するということで異論はなかった。

2026 年 4 月 10 日にオンラインで臨時委員会を開催した。

日時：2025 年 4 月 10 日(水) 10:00~12:00
場所：オンライン
出席者：和田洋（担当理事）、小谷友也（北海道支部）、出口竜作（東北支部）、谷口俊介（関東支部）、鈴木信雄（中部支部）、古屋秀隆（近畿支部）、藤原滋樹（中国四国支部）、嬉正勝（九州支部度）

１）動物学体験プログラムの企画に関して、意見交換を行った。
教育委員会として賛同しつつすすめていくことが了承された
２）学会発表に関してて基準を設定するべきか、高校生発表に関しては別途設定すべきか、について議論を行った。
一般発表も含めた基準を定めることは現実的には難しいという意見が大半であった。
高校生発表について、一般発表とは別途発表基準を定めることはやむを得ない、以前共有した基準を元に明記していくことを今後検討する。

その他、
・寄附委員会を中心に企画された「動物学体験プログラム」の企画、審査などに関わってきた。
・2025 年 10 月　生科連の用語集作成の原稿依頼を受け、担当の割り振り、依頼を行った。

IT 委員会

1. 第 96 回名古屋大会の演題閲覧検索システム K-con navi の学会中の運用を監理した。
2. 第 96 回名古屋大会の際に IT 委員会を対面で開催し、今後の活動方針を協議した。(9/3)
3. 札幌大会用 web サイトについて、2025 年 12 月に札幌大会実行委委員会へ構築および基本的な管理を移管するとともに、システムの監理を行った。
4. 札幌大会の演題登録システム及び参加登録システムについて、札幌大会実行委員会と連携し、サイト管理を担当する（株）ダイナックス及び杏林舎と協力してローカライズ作業を行った。試行テストを経て、2026 年 5 月初旬に公開した。公開後はサイト管理を大会実行委員会に移管し、システムの監理を継続するとともに、業者による対応が必要な案件については調整を行った。
5. 2025 年度第 2 回理事会（25/9/3）のけ次に基づき、会員データベースの公開設定の見直しを実施した。学会 web サイトの運営を委託している（株）ダイナックスに改修を依頼し，設定の精査及び改修を完了した。また、その過程で判明したデータベース上の問題点についても修正を依頼し、対応を完了した。
6. 学会 web サイト及び大会 web サイトのシステム管理について、運営委託会社である（株）ダイナックスと連携しながら対応した。
7. 2026 年 6 月、志賀会長の諮問を受けて学会英語 web サイトの構築及び運営の方法について検討を行った。持ち回り理事会の承認を経て、（株）ダイナックスに構築作業を依頼した。

ZDW 委員会

ZooDiversity Web の維持更新

ZDW は ZM, ZA のアーカイブを含めて完成した状態にあるが、ZS, ZL については新たに出版される論文情報を更新が必要となる。また、不具合が確認された際には修正を順次行う必要がある。
・ZS, ZL の論文についてデータベースを嶋田会員が作成
・Dynax がデータを更新（同社とは年間契約）
・Virtual Issue の編集（原稿を Dynax が ZDW にアップ）
・ZDW のデータ修正、改善（作業内容を決めて Dynax に依頼）
・ZDW からリンクしたサイト（What's ZDW?，How to Use (Video)，ZDW でできること）の維持管理
・アクセス状況の確認

ZDW 委員会（メール審議）

ZDW 委員会立ち上げ当初より、委員会の中心メンバーとして参画いただき、学会各誌の学名抽出作業等、ZDW に甚大なる貢献を果たしてこられた嶋田大輔会員が 2024 年 11 月 19 日に急逝された。嶋田会員が中心的に担当されてきたデータベース作成作業については、2024 年度内は田中正敦会員（慶應義塾大学）に、2025 年度は加藤大河会員（京都大学）と小野鈴太郎会員（北海道大学）に、それぞれ ZS の偶数号と ZL の偶数巻、ZS の奇数号と ZL の奇数巻を担当する形で担当いただいている。
なお、委員会内より、ZDW の立ち上げから献身的に尽力され、現在運用されているシステム構築に多大なる貢献をされた故・嶋田大輔会員の功績に対し、学会から感謝状等の授与ができないか、委員より提案がなされた。

寄付委員会

1）2025 年度の寄付件数は 129 件で、総額 664,913 円のご寄付を頂いた。年間 100 件以上という目標件数を達成することができた。寄付件数のうち、Syncable を通じた寄付は 46 件であった。46 件中 29 件で、寄付者が Syncable 側への運用手数料を負担して下さっており、本来、動物学会が支払う経費負担が軽減された。
2）2025 年 9 月 6 日に名古屋大会の「動物学ひろば」にて寄付を募るブースを設けたが、寄付の獲得には至らなかった。
3）2026 年 6 月 9 日～6 月 29 日の期間、クラウドファンディング（動物学体験プログラム、目標金額 200,000 円）を実施し、24 件、173,049 円のご寄付を頂戴した。

会長

・プライバシーポリシー案について理事会でメール審議を行った（8 月 19―27 日）
・国際生物学賞委員会事務局より委員会の説明を受け、委員を引き受けることとした（9 月 17 日）
・Zoological Letters 誌の今後に係る意見交換会にオブザーバーとして参加した（9 月 24 日）
・理事と監事に第 3 回理事会開催のお知らせ（召集）を送付した（10 月 9 日）
・事務局及び執行部で Zoological Letters APC 補助金額の支出の可否について検討した（12 月 3―6 日）。
・大場方子様に 2025 年度 OM 賞のご報告とお礼状を送付した（12 月 4 日）

・庶務理事および事務局と代議員制導入のための定款改訂や実施方法について議論し、理事会審議事項について検討した（12 月 4―8 日）
・Zoological Letter の APC 補助について理事会で審議承認し、ZL 委員会から ZL APC 補助についての会員向けにメールを送付した（1 月 13 日）
・本年度動物学会札幌大会における本部企画ナリシゲシンポジウムについて執行部と相談し、タイトル「Zoological Science と Zoological Letters　これまでの歩みとこれからの展開」と講演者を決定した（1―3 月）。
・新入会者の小中高教員会員の会員資格を確認した（1 月 26 日）
・Zoological Science の 2026 年刊行分はオープンアクセスで公開される旨、会員に案内を送付した（2 月 19 日）
・OM 賞審査委員会委員、茗原助成選考委員会委員を選び内諾を得た（2 月）。
・理事会審議：「学会賞等選考委員の交代について」メール審議を行い承認された（3 月 3―6 日）
・動物学会奨励賞の推薦者が非会員であることについて賞担当理事及び執行部で議論し、問題ないとの結論に至った。（3 月 17 日）
・中辻創智社の 2026 年度の選考委員として浅見崇比呂会員、保智己会員の再任を承認した（3 月 25 日）
・動物学の百科事典（丸善出版）のサブスク化の許諾を承認した（4 月 21 日）
・2025 年度第 4 回理事会開催のお知らせ（召集）を理事会メンバーへ送付した（4 月 21 日）
・日本学術振興会　育志賞の推薦の可否を審査した（5 月 8―15 日）
・ナリシゲグループ代表取締役成茂光子様に動物学会札幌大会でのナリシゲシンポジウムのサポートのご案内とサポートのお願いおよびこれまでのお礼を送付した（5 月 18 日）
・動物学会札幌大会の本部企画ナリシゲシンポジウム講演者に札幌大会の参加および講演要旨登録お願いのメールを送った（5 月 22 日）
・ジュンアシダ賞への応募について、男女共同参画理事と執行部で議論し、応募する計画を立てた（5 月）
・代議員制導入に関わる定款および定款細則改訂について庶務担当理事、事務局と打ち合わせを行った（6 月 1 日）
・動物学会英語ホームページの作成について執行部、IT 担当理事、広報担当理事、事務局とともにオンライン会議で検討し、方向性を定めた（6 月 26 日）
・ジュンアシダ賞の申請書を作成し、事務局を通して応募した（6 月 29 日）
・英語ホームページ用の会長挨拶、学会についての文章を作成した（7 月 1 日）
・理事と監事に第 1 回理事会開催のお知らせ（召集）を送付した（7 月 13 日）

副会長

1. 本部役員間のメール会議、ならびに事務局のオンライン打ち合わせおよび事務局での対面打ち合わせに参加し、解決すべき所掌事項に対して意見を出し課題解決に寄与した。
2. 財団からの選考委員候補者の推薦依頼に対し意見を出し、候補者を検討した。
3. その他、会長、会計、庶務、ならびに各委員会の職務を補佐した。
4. 本部役員間のミーティングならびに事務局のオンライン打ち合わせおよび事務局での対面打ち合わせに参加し、解決すべき所掌事項に対して意見を出し課題解決に寄与した。
5. 財団からの選考委員候補者の推薦依頼に対し意見を出し、候補者を検討した。
6. その他、会長、会計、庶務、ならびに各委員会の職務を補佐した。

庶務

会長、副会長、会計及び事務局長と連携を図りながら理事会の準備を含む動物学会の運営の補佐を行った。
2026 年の札幌大会の開催について、適宜進捗状況を把握している。また、随時生じる判断事項について、会長、副会長、会計、事務局長と相談の上、決断するサポートを行った。

2025 年度理事会を行うにあたり、議事次第のとりまとめおよび議事録の作成を行った。

会計

(1) 会計担当として、毎月の収支計算書を確認するとともに、職員の給与額や賞与額の決定、各種委員会等で必要な経費の支出について、承認を行なった。
(2) 2026 年 6 月開催の第 4 回理事会において、2026 年度予算案を提案し、承認を得た。また、2026 年度の資金調達および設備投資の見込みがないことについて説明し、承認を得た。
(3) 本部役員として、助成金の学会推薦審査、北海道大会の本部企画提案、委員会からの相談対応等、学会運営に関わる重要案件に対して、会長、副会長、庶務担当理事と共に対応した。

賞等担当

1）学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、2026 年度日本動物学会賞の受賞者 2 名を決定した。

2）学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、2026 年度日本動物学会奨励賞の受賞者 3 名を決定した。
3）学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、2026 年度成茂動物科学振興賞の受賞者 1 名を決定した。
4）学会賞等選考委員会の審査と理事会の議を経て、2026 年度動物学教育賞の受賞者（団体）1 名を決定した。
5）学会賞等選考委員会と理事会の審査を経て、2026 年度若手研究者国際会議発表支援川口賞の受賞者 2 名を決定した。
6）OM 賞選考委員会の審査と理事会の議を経て、2026 年度日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞受賞者 2 名を決定した。
7）Zoological Science 編集委員会による選考と理事会の議を経て、2026 年度 Zoological Science Award の受賞論文 7 件を決定した。
8）茗原眞路子研究奨励助成選考委員会による審査と理事会の議を経て、2026 年度茗原眞路子研究奨励助成の受給者 3 名を決定した。
9）理事会において 2 名の感謝状贈呈の推薦を受け、審議の結果、日本動物学会感謝状の贈呈を決定した。

大会引継ぎ担当
1）第 96 回名古屋大会（2025 年）の資料を第 97 回札幌大会（2026 年）に引き継いだ。
2）札幌大会実行委員会からの質問に対し、名古屋大会実行委員に協力を仰ぎながら適宜回答した。

9. 支部活動

北海道支部

1．次回支部大会の開催について

第 70 回支部大会を以下のように開催した。

第 70 回日本動物学会北海道支部大会
日時：2026 年 3 月 21 日（土）9:20～17:00
場所：北海道大学理学部 5 号館低層棟 301 室
参加者：53 名
内容：一般発表（14 演題）、特別講演（春見達郎 先生：旭川医科大学解剖学講座）、高校生発表（5 演題）、総会

2．支部役員会の開催について

第 1 回北海道支部役員会（メール会議）2025 年 10 月 20 日（月）

[報告事項]

・来年度の支部大会の実施：札樽地区担当（→ 北大理学部で 3 月 21 日に開催）

[審議事項]

・支部規約の改訂について

A: 支部規程第 3 条（ホ）幹事：4 名（庶務・会計各 2 名）支部長が会員中より指名する。支部委員以外から指名された場合は、支部委員の定数に関わらず、その幹事を支部委員とする。
→ 現在は 2 名の体制で活動しているため『4 名（庶務・会計各 2 名)』を『2 名（庶務・会計各 1 名)』へ変更することを提案する。
議論の結果、『支部規程第 3 条（ホ）幹事：2 名（庶務・会計各 1 名）支部長が会員中より指名する。支部委員以外から指名された場合は、支部委員の定数に関わらず、その幹事を支部委員とする。』へ改訂する。

B: 支部役員選挙規程 4. 支部委員は、支部が組織した選挙管理委員会の下で行う地区別の選挙により選出される。支部委員の定数は地区ごとに会員 10 名につき 1 名（四捨五入）とし、改選時に見直しを行う。但し、最低数は 3 名とする。選出は 3 名以上の連記投票とする。末位同得票者がある場合には年少者とする。
→ 現在の会員数を元にすること、東部地区および西部地区から最低 3 名の選出は厳しい（または、今後厳しくなる)。そこで、最低数 3 名を変更する必要があると思われる。何名が適当だろうか？
議論の結果、『支部役員選挙規程 4. 支部委員は、支部が組織した選挙管理委員会の下で行う地区別の選挙により選出される。支部委員の定数は地区ごとに会員 10 名につき 1 名（四捨五入）とし、改選時に見直しを行う。但し、最低数は 2 名とする。選出は 3 名以上の連記投票とする。但し、会員数が 20 を下回る地区からの選出は 2 名の連記投票とする。末位同得票者がある場合には年少者とする。』へ改訂する。

なお、支部規約の改訂であるため、最終的には 3 月開催予定の支部総会での承認を得たのちに改訂を行うことになる。

第 2 回北海道支部役員会（メール会議）（2026 年 3 月 9 日）
・2024 年度（2024 年 7 月～2025 年 6 月）の支部活動報告および支部会計報告
・これまでの支部活動の報告（第 1 回支部役員会と支部講演会について）
・2026 年 9 月実施予定の本大会の準備状況説明と協力について
・支部規約の改訂について
第一回支部役員会で説明した支部規約の改訂を決定
A: 支部規程第 3 条（ホ）幹事：4 名（庶務・会計各 2 名）の変更
→『4 名（庶務・会計各 2 名)』を『2 名（庶務・会計各 1 名)』へ変更
B: 部役員選挙規程 4.の変更
4. 支部委員は、支部が組織した選挙管理委員会の下で行う地区別の選挙により選出される。支部委員の定数は地区ごとに会員 10 名につき 1 名（四捨五入）とし、改選時に見直しを行う。但し、最低数は 3 名とする。選出は 3 名以上の連記投票とする。末位同得票者がある場合には年少者とする。
[改]4. 支部委員は、支部が組織した選挙管理委員会の下で行う地区別の選挙により選出される。支部委員の定数は地区ごとに会員 10 名につき 1 名（四捨五入）とし、改選時に見直しを行う。但し、最低数は 2 名とする。選出は 3 名以上の連記投票とする。但し、会員数が 20 を下回る地区からの選出は 2 名の連記投票とする。末位同得票者がある場合には年少者とする。
提案 A,B ともに反対意見は無し
→ 2026 年 3 月 21 日実施の支部総会で承認

3．支部講演会の開催について

第 607 回支部講演会
・日時：2025 年 7 月 7 日（月）16:00～18:00
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：大塚 海 先生（東京理科大学創域理工学部）
・演題：Potential functions of KRAB zinc-finger proteins in murine spermatogenesis

第 608 回支部講演会
・日時：2025 年 10 月 8 日（木）17:00～18:00
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：WANG, Hongdi PhD（Research fellow, the Evolutionary Neurobiology Unit, Okinawa Institute of Science and Technology OIST）
・演題：Evolutionary implementation of hypoxic adaptation in ancestral metazoan metabolism by the HIF pathway

第 609 回支部講演会
・日時：2025 年 12 月 24 日（水）17:30～18:30
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：佐々木 嵩夫 先生（Brain and Cognitive Sciences, University of Rochester）
・演題：鳩と蟻を使った集団思考の研究

第 610 回支部講演会
・日時：2026 年 1 月 20 日（火）17:00～18:30
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：岡本直樹 先生（筑波大学 生存ダイナミクス研究センター）
・演題：“骨”のない昆虫における体内カルシウム調節機構

第 611 回支部講演会
・日時：2026 年 3 月 6 日（火）17:00～18:00
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：田中良弥 先生（名古屋大学大学院理学研究科/高等研究院）
・演題：種特異的な求愛行動を生み出す神経メカニズム

第 612 回支部講演会
・日時：2026 年 6 月 9 日（火）17:00～18:30
・場所：北海道大学 理学部 5 号館 8 階 5-813 室
・演者：山尾啓熙 先生（Institute of Neurobiology, Faculty of Mathematics and Natural Sciences, Heinrich Heine University Düsseldorf）

・演題：Astrocyte-mediated regulation of fear memory fate
（アストロサイトによる恐怖記憶の運命決定制御）

東北支部

(1) 東北支部役員会
開催日：2025 年 7 月 26 日（土）　東北大学青葉山コモンズ 2F 会議室（対面）
＜議題＞
・理事会報告
・令和 6 年度決算報告
・令和 7 年度予算計画
・活動報告（HP 更新）
・次期支部大会開催地について
・支部役員（秋田地区支部委員）の委嘱について
・これまでのフォトコンテストに代わるイベント開催について

(2) 2025 年度東北支部大会
開催日：2025 年 7 月 26 日（土）～27 日（日）　東北大学青葉山コモンズ（対面）
演題数：口頭 17 題
参加者数：56 名（うち、動物学会会員 24 名）

(3) 高校生による科学研究発表
開催日：2024 年 7 月 26 日（土）　東北大学青葉山コモンズ（対面）
演題数：ポスター 17 題
参加校数：11 校
参加者数：56 名（うち、教諭 11 名）

(4) 令和 7 年度東北支部総会
開催日：2025 年 7 月 27 日（日）　東北大学青葉山コモンズ（対面）
＜議題＞
・理事会報告
・会計報告
・次期支部大会開催地について

(5) 親子で楽しむ動物学 25　～研究に使われている動物を見てみよう！研究のおもしろさや魅力を聞いてみよう！～
開催日：2025 年 7 月 27 日（日）　東北大学青葉山コモンズ（対面）
参加者数：16 名（一般参加者のみカウント。実際は高校生や引率者、支部大会参加者も見に来てくれた）

(6)「支部だより No.78」の配信（メール）
2026 年 3 月 19 日（木）
「支部だより No.78」を 3 月 19 日（木）に東北支部の会員に配信し、7 月 25 日（土）～7 月 26 日（日）に 2026 年度東北支部大会（一般口演および高校生による科学研究発表）と東北支部総会を福島県立医科大学光が丘キャンパスで開催すること（実行委員長：福島県立医科大学・松岡有樹会員)、「親子で楽しむ動物学」は 9 月下旬に公開講演会として開催を検討中であることを通知した。

(7)「支部だより No.79」の配信（メール）
2026 年 6 月 1 日（月）
7 月 26 日（土）～27 日（日）に開催予定の 2026 年度東北支部大会の参加・発表申し込み等大会の詳しい情報を通知した。参加・発表申し込みの〆切は 7 月 1 日（水）19:00 必着とした。同時に、期間中に開催される「高校生による科学研究発表会」への参加および関連機関や地域への参加の呼びかけや広報のお願いをした。また、「親子で楽しむ動物学 26」は、9 月 26 日（土）に福島市内で福島の昆虫層に関する「公開講演会」として開催される予定であることを通知した。

関東支部

①支部主催公開講演会の実施
日時：2025 年 7 月 19 日（土）13:30-16:00
会場：東京大学本郷キャンパス　理学部 2 号館講堂
「動物をまねて作った驚きの新技術 -バイオミメティクスの世界-」

荒川 和晴 先生（慶應義塾大学）
「1000 種のクモの解析に基づく高機能バイオマテリアル設計」
菊池 デイル 万次郎 先生（東京農業大学）
「飛行をめぐる冒険：鳥と流体力学の世界」
桑折 道済 先生（千葉大学）
「クジャクの発色に倣うメラニン系構造色材料の開発」

日本動物学会関東支部企画委員　二階堂 雅人、長谷 部孝、大杉 美穂、鈴木 郁夫

②支部委員会の開催
第 1 回　2025 年 7 月 3 日（木）13:00～（オンライン）
出席者：田中、柴、深津、沓掛、川村、伊藤、二階堂、日比野、大杉、和田、兵藤、二橋、蓮沼、稲葉、鈴木、馬谷
報告事項
1）支部長報告
2）活動報告
3）会計報告
4）2025 年 3 月関東支部大会開催報告
5）2025 年 7 月支部講演会
6）2026 年 3 月関東支部大会
審議事項
7）事業計画
8）予算案
9）その他

③日本動物学会関東支部第 78 回大会
開催日：2026 年 3 月 14 日（土）
会場：埼玉大学
大会長：川村哲規会員
9:30-11:30 公開シンポジウム
「魚類研究から迫る生命機能と進化の戦略」
阿部耕太（大阪大学）
飯田敦夫（名古屋大学）
河野菜摘子（明治大学）
宮本知英（東北大学）
13:00-16:00 一般・高校生ポスター発表

④関東支部総会
開催日：2026 年 3 月 14 日（土）
会場：埼玉大学
議題
1）議長選出
2）開会
3）第 78 回支部大会長挨拶
4）支部長挨拶
5）庶務報告
6）会計報告
7）活動計画
8）支部活動決算報告の承認
9）支部活動費支出計画案
10）選挙管理委員の選出
11）2026 年公開講演会案内
12）第 78 回関東支部大会案内

中部支部
1）令和 7 年度　日本動物学会中部支部大会

令和 7 年度　日本動物学会中部支部大会を令和 7 年 12 月 6 日－7 日に，静岡大学静岡キャンパスにて開催した。

大学院生・大学生の部門では口頭発表 22 題，ポスター発表 16 題が行われた。高校生・高専生の部門では，口頭発表 8 題(うちオンライン発表 6 題)，ポスター発表 29 題が行われた。参加者は，現地参加が 233 名、オンライン参加が 30 名であった。

日時：令和 7 年 12 月 6 日(土)～ 7 日(日)
会場：静岡大学静岡キャンバス理学部
　　静岡県静岡市駿河区大谷 836
　　https://www.shizuoka.ac.jp/access/index.html
大会参加費：高校生・高専生・大学生・大学院生は無料、一般は 1000 円
懇親会費：一般 5,000 円，大学生・大学院生 2,000 円，高校生・高専生 1,000 円

12 月 6 日
公開シンポジウム「生殖細胞形成の仕組み-魚類の研究から解ったこと」を開催し、3 名の先生方に講演頂いた。
　➢小林 亨先生(静岡県立大学)：「内分泌かく乱研究から見えた性成熟のメカニズム」
　➢今井 裕紀子先生(埼玉大学)：「ゼブラフィッシュから探る減数分裂期の組換え」
　➢駿河谷 諒平先生(北海道大学)：「排卵能とは何か？―チョウザメ類の排卵機構解明に向けた研究から―」
また，大学生・大学院生による口頭発表を行った。
夕刻には支部会議を開催し，会計関係の報告と審議，次回支部大会の開催地の審議，および意見交換を行った。その後，懇親会を開催し，当日参加者や高校生を含め，約９０名が参加して親睦を深めた。

12 月 7 日
6 日に引き続き，大学生・大学院生による口頭発表の後，一般発表，高校生・高専生による口頭発表，ポスター発表を行った。

大学院生・大学生部門では最優秀口頭発表賞（2 件），最優秀ポスター発表賞（１件），優秀口頭発表賞（３件），優秀ポスター発表賞（１件）を選出し，表彰した。

高校生・高専生部門では最優秀口頭発表賞（１件），最優秀ポスター発表賞（１件），優秀口頭発表賞（１件），優秀ポスター発表賞（４件）を選出し，表彰した。

２）寄付事業
令和 7 年 9 月 6 日に開催された日本動物学会第 96 回名古屋大会における一般公開行事,「動物学ひろば」において，支部選出の寄附委員である後藤寛貴会員により，“日本の「動物学」をご支援ください！”と題した対面での寄附募集を実施した。

当日は生き物展示も同時に行ったため、ブースには絶え間なく一般の来場者が訪れた。寄附の申し出も数件あったものの，Web サイト経由での寄附となる旨を伝えると辞退され，結果として寄附件数は 0 件であった。

３）福井県地区委員について

支部規約に従い，空席となった福井県委員について，支部長より以下の会員に委嘱した。
・地区委員（福井県）尾内 隆行（福井大学医学部）

近畿支部
1. 高校生研究発表会の開催
　・日時：2025 年 11 月 16 日（日）13:20～16:00
　・場所：大阪公立大学杉本キャンパス 高原記念館・学友ホール
　・発表形式：ポスター発表
　・表彰：参加者全員の投票により最優秀賞 1 件、優秀賞 4 件を選考、表彰した。
　・発表ポスター数：19 件（10 校）
　・参加者数：90 名

2. 公開講演会の開催
　2026 年春の公開講演会

・日時：2026 年 5 月 24 日（日）10:30～12:30
・場所：長浜バイオ大学命江館 2 階大講義室 1
・講師：東城幸治 博士（信州大学・学術研究院理学系）
『遺伝子から紐解く動物たちの不思議な生態』
講師：清水正宏 博士（長浜バイオ大学・バイオデータサイエンス学科）
『サイボーグ研究から探るカエル跳躍』
・参加人数：35 人

3. 支部委員会の開催
第一回支部委員会
・日時：2025 年 11 月 16 日（日）11:00～12:00
・場所：大阪公立大学杉本キャンパス 高原記念館 特別会議室
第二回支部委員会
・日時：2026 年 5 月 24 日（日）13:00～14:25
・場所：長浜バイオ大学命岳館 3 階セミナー室 3 および Zoom（ハイブリッド開催）

中国四国支部
A. 支部の活動
(1) 第 77 回支部大会（鳥取大会）を開催した（中国四国植物学会、日本生態学会中国四国地区会と共同で中国四国地区生物系三学会合同大会として開催した)。
日時：2026 年 5 月 16 日（土)、17 日（日）
会場：米子コンベンションセンター「ビッグシップ」(米子市)
参加者数：50 名（動物学会員)、145 名（全体）
実施内容：
(a)支部役員会
(b)一般発表：ポスター17 演題、口頭 11 演題
(c)高校生発表（動物学分野)：19 演題（総演題数 58 件、総参加者数 170 名）
(d)公開シンポジウム「からだの『再生研究』最前線：モデル動物から医療応用へ」：3 演題（公開シンポジウム参加者数約 100 名）
(e)総会
なお若手優秀発表賞として 8 演題から以下の 2 名を選び、総会で表彰した。
・鈴木崇生会員（広島大・院・統合生命）
「顎口類における sox9 顎エンハンサーの同定と円口類との機能比較」
・添田麗生会員（鳥取大・院・医科）
「異所性骨化の初期段階を可視化できるゼブラフィッシュモデルの確立」
また 2027 年 5 月に開催する予定の支部大会の準備状況について高知県委員の藤原滋樹会員から説明を受けた。

(2) 中国四国地区生物系三学会合同大会の今後の運営方針について中国四国植物学会、日本生態学会中国四国地区会と話し合いを行った。

B. 各県の活動
(1) 山口県
名称：山口大学理学部主催　「サイエンスワールド２０２５～～キミの「なぜ？」が世界を変える！科学大冒険！」(日本動物学会中国四国支部後援)
日時：2025 年 11 月 9 日（日）
場所：山口大学理学部 1 号館・総合研究棟・山口大学第 2 学生食堂「きらら」・山口大学生協 FAVO
内容：学生による科学体験企画を中心とした地域住民への科学への魅力発信（出展企画：21 件）
来場者：約 530 名

(2) 岡山県
名称：2025 年度日本動物学会中国四国支部会岡山県例会
日時：2025 年 11 月 19 日（水）16：00~17：30
場所：岡山大学 理学部 第 21 講義室
内容：研究セミナー（松山誠博士／重井医学研究所）
参加者：約 30 名

(3) 愛媛県

名称：愛媛県例会
日時：2025 年 12 月 20 日（日）13：00～16：00
場所：愛媛大学理学部
内容：研究発表（口頭発表 8 題）
参加者：約 30 名

(4) 高知県
名称：第 117 回土佐生物学会
日時：2025 年 12 月 20 日（土）9：30～16：30
場所：高知大学理工学部
内容：研究発表（口頭発表 13 題、ポスター10 題）
参加者：一般 23 名、学生 48 名、高校生 6 名、計 77 名

(5) 広島県
名称：令和 7 年度広島県例会
日時：2025 年 3 月 6 日（金）10：30～16：30
場所：広島大学理学部
内容：午前中：森下文浩会員による記念講演、午後：対面式のポスター発表を実施
参加者：約 70 名　40 演題（13 題：大学院生、16 題：学部生）

九州支部

1）三学会合同宮崎例会
日時：2025 年 11 月 8 日（土）13:00-15:30
会場：宮崎大学 農学部講義棟 2 階 L202 教室
演者と演題
1.「九州山系ヤマメの生理学的特性とその養殖への導入」
　内田勝久（宮崎大学 農学部農学科　海洋生命科学領域）
2.「サンゴの骨格形態と分類」
　深見裕伸（宮崎大学 農学部農学科　海洋生命科学領域）
参加者：8 名

2）三学会合同熊本例会
日時：2025 年 11 月 15 日（土） 13：00-16：00
場所：熊本大学 黒髪南キャンパス 理学部 2 号館 1 階 C122 教室
演者と演題
1.「深海に暮らすヤドカリとイソギンチャクの共生のメリットについて」
　吉川晟弘 （熊本大学 くまもと水循環･減災研究教育センター）
2.「力学×計算モデリングで挑む植物の三次元形態と運動のダイナミクス」
　中田未友希（熊本大 大学院先端科学研究部）
3.「マウス生殖腺と生殖細胞の発生を制御する分子機構について」
　田中 聡 （熊本保健科学大学 保健科学部）
参加者：17 名

3）三学会合同佐賀例会
日時：2025 年 11 月 15 日（土）13：00-17：00
会場：佐賀大学農学部 1 号館 1 階第 3 講義室
1．宗　祥史（鹿児島大学大学院連合農学研究科）
　「蕾に潜む微小なタマバエの膨大な多様性」
2．千葉悠斗（佐賀大学農学部/佐賀大学生物資源教育研究センター）
　「生態系の一員としてのウイルス：環境中の生物に潜むウイルスの生きざまを探る」
3．野村美加（香川大学農学部）
　「マメ科植物と根粒菌の共生系における鉄輸送機構の解明」
参加者：13 名

4）三学会合同鹿児島例会
日時：2025 年 12 月 6 日（土）13：00-17：00
場所：鹿児島大学 理学部棟 2 号館 1 階　214 号教室
演題と演者 ：

高校生発表（13:00～14:20）
1.「マゴコロガイに関する研究」
津曲学園 鹿児島高等学校 自然科学部
北山 隼太朗，上村 勇海
2.「建物に生息するオオヒメグモの採餌戦略」
鹿児島県立 錦江湾高等学校
平 悠希，前田 蒼真，指宿 奨大
3.「ハナムグリの背面歩行について」
池田学園 池田高等学校
及川 蒼介，上釜 花
4.「全国の‘染井吉野’の開花を法則化～実用化に向けた池田モデルの検証～」
池田学園 池田高等学校
坊野 壱斗，石黒 仁十，有川 星甫，邢 惟嘉，岩切 野々花

特別講演（14:40～15:35）
「ウミエラ上科における多様性研究～骨片と水深に着目して～」
櫛田優花（鹿児島大学大学院　理工学研究科）

学生発表（15:45～17:00）
「イチゴは土壌窒素固定細菌に対して共生応答を示すのか？」
坂田雅，内海俊樹，福留光挙（鹿児島大学大学院 理工学研究科 生物学プログラム）
「ナマズ目魚類カイヤン（Pangasianodon hypophthalmus）の味覚系に関する組織学的研究」
宮城涼，池永隆徳（鹿児島大学大学院 理工学研究科 生物学プログラム）
「キンギョの一次味覚中枢の層構造の発達」
迎はる香，池永隆徳（鹿児島大学大学院 理工学研究科 生物学プログラム）
「ワカレオタマボヤの形態形成の完了時にみられる形態変化（tail shfit）と尻尾のビート運動のタイムラプス記録」
石津拓海，三輪真紀子，小沼健（鹿児島大学大学院 理工学研究科 生物学プログラム）
「ワカレオタマボヤ表皮上においてハウス原基が形成される時系列を明らかにする試み」
武冨祐己，三輪真紀子，小沼健（鹿児島大学大学院 理工学研究科 生物学プログラム）
参加者：52 名

５）三学会合同福岡例会
日時：2025 年 12 月 13 日（土）13：00-
場所：九州大学 伊都キャンパス 理学部講義棟（ビッグリーフ）202 室
演題と演者 ：
「シロイヌナズナ LOHN1 ペプチドを介したシステミックな高窒素応答と根の生長制御」
楠見 健介（九州大学大学院理学研究院）
「腸内細菌叢を人為的に再構築したミツバチの示す砂糖水応答」
末次 翔太（福岡大学理学部地球圏科学科）
「ハクセンシオマネキのメスの配偶者選択における密度依存的な他個体による妨害」
竹下 文雄（北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）
参加者：22 名

６）三学会合同大分例会
日時：2025 年 12 月 13 日（土）10：00～15：35
場所：大分大学 旦野原キャンパス 教育学部（100 号教室）
演題と演者 ：
10:05～10:25「大野川下流域に見られる淡水赤潮について」
　○細井 利男（大分生物談話会）
10:25～10:45「絶滅種ニホンアシカの高島における生息記録」
　○植木 和宏（株式会社レックス九州）
10:45～11:05「大分市周辺部の里山における野鳥調査（2023/03–2025/02）」
　○森田 祐介（NPO 法人おおいた生物多様性センター）
11:15～11:35「大分県で新たに定着が確認されたオオムカデ科の 1 種について」
　○松向寺 智哉（筑波大学 理工情報生命学術院）
11:35～12:05「大分県における海水魚類の標本収集活動」
　○星野 和夫（大分マリーンパレス水族館「うみたまご」）

13:15～13:35「おおいたかわまちリバーフェスタ（2024 年、2025 年）における水生生物展示」
　○高野 裕樹（大分生物談話会 魚類班）
13:35～13:55「高島においてヤブツバキの年輪に記録された外来リスの食痕の観察例」
　○安田 雅俊（森林総合研究所）
13:55～14:15「大分市七瀬川自然公園周辺に生息するコウモリ類の種の推定および音声数と気象要素の関係」
　○大分県立雄城台高校科学部（顧問：安部慶一郎）
14:25～14:45「センチンボウが消える日 ― 姫島の魚類方言を考える ―」
　○足立 高行（NPO 法人おおいた生物多様性保全センター・信州大学人文学部）
14:45～15:05「県立自然史博物館構想に向けて　地質編：大分の地質多様性の紹介」
　○利光 誠一（大分地質学会）、山田 俊治（大分地質学会）、堀田 秀俊（大分地質学会）
15:05～15:30「自宅のビオトープに来るカエル」
　○森澤 猛（森林総合研究所）
参加者：70 名

７）三学会合同長崎例会
日時：2025 年 12 月 13 日（土）
場所：長崎大学環東シナ海環境資源研究センター新館２階セミナー室
演題と演者 ：
13：30　異なる音環境下におけるクモハゼ雄の求愛方法の調節
　○中条　菜々子・竹垣　毅（長崎大院・総合生産）
13：45　マメダコの雄が交接腕を守る行動は繁殖期が近づくと強度を増す
　○晴木啓二朗・山手佑太・竹垣毅（長崎大院・総合生産）
14：00　ロボットを用いたチゴガニのウェービング同期の行動解析
　○山口実希 1・岡田二郎 2（1 長崎大院・総合生産、2 長崎大・環境）
14：15　八代海におけるコノシロの繁殖特性
　○亀飼耕平 1・山口燿 2・天谷貴史 2・征矢野清 2（1 長崎大院・総合生産、2 長崎大・海洋イノベ）
14：30　闘争およびウェービング時におけるチゴガニ個体間の心拍の関係
　◯髙橋萌々・岡田二郎（長崎大・環境）
15：00　マメダコの地理的条件に着目した巣穴利用生態の解明
　○新木勇翔・山手佑太（長崎大院・総合生産科学）
15：15　イカ養殖に向けたイサザアミの飼育環境の検討 および稚イカ初期餌料量の検証
　◯山村実夢 1・村田良介 2・阪倉嘉孝 1・征矢野清 2（１長崎大・水産、２長崎大・海洋イノベ）
15：30　コオイムシにおける体サイズのクラインはなぜ生じるのか？
　○大浦ひなた 1・松本弥優 2・原優梨亜 2・大庭伸也 1,2（1 長崎大院・総合生産、2 長崎大・教育）
15：45　島原に生育する難培養性紅藻の培養の試み
　◯酒井康平・桑野和可（長大院・総合生産）
16：00　アカモクの室内母藻育成法の検討
　◯川戸聡次朗・桑野和可（長大院・総合生産）
参加者：25 名

８）熊本公開実習
日時：2025 年 12 月 13 日（土）
会場：熊本大学理学部
参加者：9 名

９）四学会合同沖縄例会
（沖縄公開シンポジウム）
開催日：2026 年 5 月 30 日（土）
会場：沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学
公開シンポジウム　16：00～

「沖縄のドングリと多様な生き物のつながり」
　大会会長　照屋建太（沖縄キリスト教短期大学 地域こども保育学科

「沖縄のドングリと人との関わり」
　盛口満（沖縄大学人文学部こども文化学科）

「沖縄のドングリをモニタリングする」

高嶋敦史（琉球大学農学部与那フィールド）

「沖縄のドングリと森の動物たち」
小高信彦（森林総合研究所九州支所）

＜総合討論＞
コメンテーター
佐々木健志（琉球大学博物館　風樹館）
山本以智人（環境省奄美野生生物保護センター）

＜閉会挨拶＞
沖縄生物学会会長　傳田哲郎（琉球大学理学部）

参加者：248 名

１０）第 78 回日本動物学会九州支部大会
（第 78 回日本動物学会九州支部大会を、九州沖縄植物学会および日本生態学会九州地区会と共催し、三学会合同福岡大会 2026 として開催）

日時：２０２６年５月２３日（土）～ ２４日（日）
会場：福岡大学理学部 18 号館　中央図書館多目的ホール
内容：
一般講演：ポスター発表（高校生発表：13 演題）
　　口頭発表（一般発表：36 演題）
特別講演：1 演題

参加者：125 名（一般：69 名、高校関係者：56 名）

１１）日本動物学会九州支部委員会
日時：２０２６年５月１８日(月)　14：00～15：00
場所：オンライン開催（TEAMS）

１２）日本動物学会九州支部総会
日時：２０２６年５月２３日(土)　16：00～16：30
場所：福岡大学理学部生物第二実習室

II. 法人の運営体制の充実を図るための取組

・適切な法人運営のため、6 月、8 月、9 月、12 月に定期的な理事会を開催している。
・月次収支、決算報告書について、税理士法人による確認を受けている。
・外部監事による監査を受け、独立した視点からの助言や提案により理事会運営の活性化を図っている。
・行政書士による指導を受け、プライバシーポリシー（個人情報保護方針）を策定、ホームページで公開し、個人情報を扱う組織としてのリスク管理に努めている。

以上
作成日：2026.7.16